

(集字)

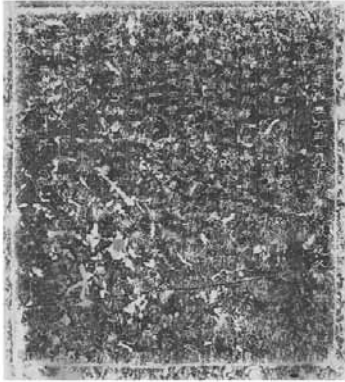


主凶版·臨為父通作封記

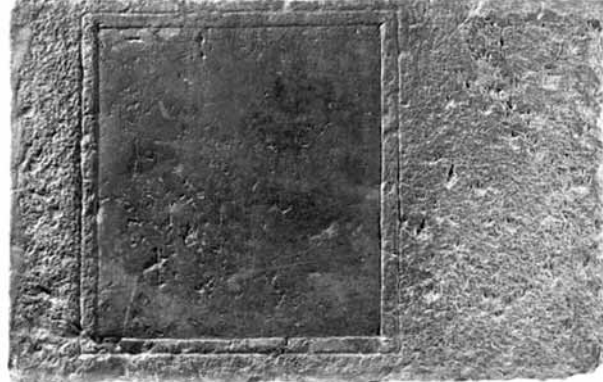
「落ち穂拾い記」⑦⑥

「臨為父通作封刻石」漢・延熹六年(163)

図③



図②



図①



図⑤



図④



古くは「臨為父通作封記」、最近は、「漢延熹六年(163)の制作である。清末に発見され、原石は山東省博物館に所蔵されている。「礼器碑」や「孔宙碑」、「西岳華山廟碑」などと同時代の作である。漢の小さな隷書の優品として知られ、その書風は、伸びやかな波磔を具えた八分隸書である。細くしなやかな筆画で、生き生きとした趣を示している。漢の小子の隷書刻石の最たる作である。右頁の主図版には、刻石の右上部を原寸で示した。おそらく埋められていたのでないで文字が少し破損している。全体の中から鮮明な文字を集字して左に縦にやや拡大して示した。二十代の終わり頃から自宅にお邪魔して、昔話を聞かせていただいていた中国書道史研究の老大家・藤原楚水先生(1880~1990)の跋文が、巻末にある(図4)。この拓を入手して、先生に見ていただいたときに書いていただいた。各種の金石著作を基に文章を作られ、筆を執られたのであろう。昭和46年(1971)、先生が91歳の頃である。懐かしい思い出の拓である。楚水先生は、110歳までご健在で、その年の男性最長寿者であられた。109歳の時に書いていただいた色紙を大事にしている(図5)。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)

書のひろば

理事長 下谷洋子

第195回(公社)全日本書道連盟 理事会開催

3月5日、上野精養軒にて理事会が
開催されました。

議事

1. 書写・書道教育推進協議会ならびに日本書道ユネスコ登録推進協議会の活動状況について
 2. 令和7年度書道講演会の報告
 3. 令和7年度助けあい募金の報告
 4. 令和8年度事業計画案、収支予算案、資金調達及び設備投資の見込みについて
 5. 令和8年度総会・令和8年度書写書道教育講演会について(6月4日)
 6. 令和8年度夏期書道大学講座について(8月7日～9日)
 7. 助成申請について
 8. 評議員推薦について
 9. その他
- 書写・書道教育推進協議会
「教育課程における書写・書道教育の改善・充実についての要望」を、昨年12月に、協議会田中壮二郎会長、高木聖雨副会長、事務局片山純一氏によって、松本洋平文部科学大臣に手渡した。
- 日本書道ユネスコ登録推進協議会

第21回ユネスコ無形文化遺産保護条約政府間委員会の開催は、本年11月30日～12月5日の間に、中華人民共和国・福建省廈門(アモイ)で行われます。

この6日間のうちに「書道」の登録について決定されます。政府間委員会開催前の1年半にわたってユネスコ評価機関の審査が行われ、政府間委員会の4週間前までには評価結果の勧告があります。

正式登録後は、記念セレモニーや記念イベントが検討されています。

新しいロゴマークを取り入れた登録記念仕様のピンバッジも制作されます(日本書道文化協会の寄付事業)。

ピンバッジの裏面に登録日を印字。前回同様、記念品付きの寄付の形を取り、寄付をされた方々に記念品としてピンバッジを差し上げるもの。

これについては事前申し込みとなりますので詳細は後日掲載します。

令和7年度第4回 (公財)書道芸術院通常理事会開催

3月21日、本院事務所にて理事会が開催されました。

議事

- 1) 令和8年度公益財団法人書道芸術院事業計画(案)の承認について
- 2) 令和8年度公益財団法人書道芸術院収支予算(案)・資金調達及び投資の見込みについて

- 3) 創立80周年記念事業について
- 4) 書道芸術院(書道芸術院展)会員規則の一部変更について



理事会の風景(院事務所にて)

審議事項

- 1) 第80回書道芸術院展関係人事について(昇格、移籍、退会、逝去者等)
 - 2) 令和8年度単位認定講習会について
 - 3) 秋季展公募、書道芸術院現代詩文書展の開催について
 - 4) 創立記念日の講演会講師について
- 報告事項
- 1) 書道芸術院第77回毎日書道展出品者懇親会について
 - 2) 代表理事、業務執行理事の職務の執行状況の報告

来年は記念展のため、記念行事がいくつか企画されます。そのため今年から準備に入ります。詳細は追ってお知らせしますが、楽しみにして下さい。

弘法大師奉賛

第60回記念 高野山競書大会 作品募集

主催：高野山総本山金剛峯寺

■作品締切＝5月11日(月) ■出品料＝競書の部(学生)団体出品1点350円、個人出品1点500円・(一般(大学生含))団体出品1点700円、個人出品1点1000円
■競書の部(一般のみ・審査なし)団体出品1点700円、個人出品1点1000円
■競書された方には感謝状並びに記念品をお贈りします。

■半紙、縦書き、内容自由。1人10点まで。
■優秀作品展示＝7月31日(金)～8月16日(日) 於：総本山金剛峯寺
■関東地区優秀作品展示＝8月28日(金)～8月30日(日) 於：東京高輪 高野山東京別院

出品案内の請求先 団体出品・個人出品を明記のうえ
高野山競書大会総本部 / 〒648-0294 和歌山県伊都郡高野町高野山132
総本山金剛峯寺内 0736-56-2012(直)
FAX0736-56-5450



公式サイト

後援：毎日新聞社・全日本書道連盟 他

篆書 3 甲骨文

殷時代、亀の腹甲や獣骨(主に牛の肩甲骨)の裏面に凹みを掘り、その凹みに火をあて表面にできたひび割れによって、王室の祭祀、戦争、狩猟、農作物の豊凶を占い、その内容と結果を刀で刻した文字が甲骨文(亀甲獣骨文字)です。殷時代晩期(前1300〜1100頃)の文字で、現存する最古の漢字ですが、象形文字のほかに、会意や形声のように2つ以上の要素を加えて1字を構成している文字もあり、文字としてはすでに発達した体系を持つものです。漢字は、甲骨文から3千数百年、書体の変遷を経て、綿々と受け継がれ今に至ります。漢字の祖先である甲骨文は鋭利な刃物で彫られた、直線を基調に構成される古朴な趣きの文字です。甲骨文や金文により漢字の成り立ちを学び、古代人の造形感覚を味わいましょう。また、これら古代文字を素材として、創意を加えた、新たな書表現も可能です。是非試みて下さい。

※YouTube『筆のサロン』に臨書と倣書の関連動画を配信しました。是非参考にして下さい。QRコードでアクセスできます。



筆のサロン QRコード

① 甲骨文「出覓」



② 甲骨文「出覓」部分拓本



③ 臨書「出覓自北飲」



④ 創意を加えた臨書「出覓」

⑤ 倣書「天馬行空」



基礎基本講座

ペン字を始める皆さんにその理由をお聞きすると、お礼状や感謝の言葉を美しい文字で書きたい、社会人になって恥ずかしくない文字を書きたい、慶弔袋を上手に書きたい等のお声が返ってきます。そこで、今回から字形の整え方についてお話をします。

〈字形の整え方〉〜楷書〜

漢字は、それぞれに美しい字形を持っていますので、その字形に応じた整え方を考えて書くことで端正な楷書が書けると思っています。

- ① 左右対称にする 合 求 東
- ② 点画の間を均分にする 言 世 形
- ③ 外形を整える 赤 国 四
- ④ 偏と傍のバランスをとる 雲 童 中心を考える
- ⑤ 上下からなる文字 側 勢 緊密に
- ⑥ 3部からなる文字 勢 緊密に

書をされている皆様には周知のこと、何を今更の感がありますが、楷書は書くのに最も難しい書体だと思えます。点画のバランスや空間、起筆・収筆など細部への配慮が求められ、すべての点画がはっきりと見えて、ごまかしが効かない書体だからです。しかし、読みやすさは一番。日常の生活の中でも多く使われています。まずは楷書の整え方をマスターしたいものです。

楷書の字形の整え方を理解したら、次は線質です。線の質を向上させるためには運筆を大切にしましょう。線が揺らいだり、波打ったりしないよう、親指・人差し指・中指を意識し、横画は親指で、縦画は人差し指で、はねは中指で「押す」を意識して書いてください。練習することで、運筆にリズムが生まれます。まずは毎日30分です。

なお、筆順も字形を美しく整えるポイントです。正しい筆順(特に楷書)で書けるようお手元に筆順辞典などを置かれると良いですね。

書道芸術院

令和の群像 (2026)



松浦智扇 (大阪)

「私と書」

書を始めると早いもので60年の月日が経過しました。当初その出会いは書道というよ

り習字の世界でした。思い返すと小学校3年生の習字の授業でした。担任の先生はとても字の上手な先生で子供心に憧れていた記憶がありました。そんな先生から習字の授業の時、半紙に書いた文字に朱液で「赤〇」を貰えるのが嬉しくて大好きな授業となりました。

そんな書との関わり合いから習字に興味を持ち出した頃、たまたまご近所に故・小伏竹村、小扇先生宅があり、教室に通わせていただきました。競書の課題を通じて小扇先生は基礎から丁寧にご指導下さいました。小扇先生に笑顔いっぱい褒めて預けることが何よりも子供心に嬉しくて大きな励みになりました。

その後成人してからは、小伏竹村先生からご指導頂く機会に恵まれ、ただ、字が上手になりたいという気持ちで一生涯命練習に励みました。そしていつの間にか書の魅力に取り惹かれて行きました。そんな時を経て何

度となく挫折を感じた時、諸先輩や仲間達からの励ましや助言を預きながら書き続けてきたからこそ今日の私があるように思います。

書を書く楽しさ苦しみ、作品作りを工夫、変化してゆく面白さ、そしてなんと言っても最後は未熟さの中にも達成感、満足感に満たされます。そして、次の作品へと挑戦してゆける次への原動力になります。

これからも一層古典臨書が基本となり、その重要性を痛感させられることでしょう。迷ったら基本に戻ること、積極的に目習い、これこそが上達してゆける秘訣ではないかと思うようになってきました。そして最後は自分への挑戦、チャレンジ精神でいつの間にかそれを乗り越えている自分を発見します。そんな喜びを少しずつ感じる事ができるようになってきました。まさしく「継続は力なり」。この言葉を痛切に感じつつ書への真摯な姿勢と情熱を持ち続け、これからも精進してゆきたいと思っています。そしてこれからの人生を書とともに健康で楽しく乗り越えて共有してゆければと思います。いつの日か人の心に残る作品を書ければと思いつつ、そして最後に書をやっ

ていて良かったなァーと思える人生を!!

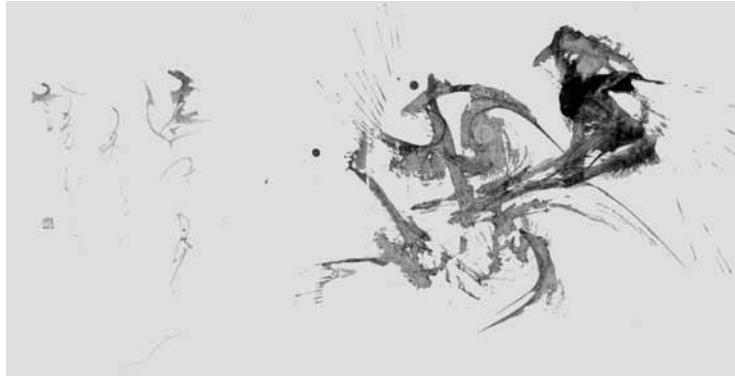
最後になりましたが、これまで歩んでこられましたのも小伏竹村先生、小扇先生に教授いただき多くの皆様のお力添えのお陰と感謝の念でいっぱいです。



ハルカス毎日関西代表作家展「蔽」 松浦智扇書

書道芸術院

令和の群像 (2026)



大拙社中展出品作品「遠き日」

嵯峨翔葉書



嵯峨翔葉 (宮城)

「感謝して」

私が生まれたのは山形県の山に囲まれた「市」とは名ばかりの、夏は蒸し暑く冬は雪深い小さな田舎町です。朝から日の暮れるまで一日中外を走り回っているような子どもで好奇心旺盛な子でもあったように思います。習い事も好きで親は何でもどうぞとばかり色々通わせてくれました。決して裕福な家庭というわけではなく、単純に甘やかされてわがままに育っただけのことでした。

飽きっぽく何一つ身につかなかったのですが、二十歳を過ぎた頃、書道への想いが再び沸き上がり、後に義父となる嵯峨青峰のもとへ通い始めました。

それから50数年続けてこられたのは色々要因がある中で、古典臨書の奥深さを知り、墨象という未知の世界に魅かれていったことと、社中の方々との繋がりが(絆といえるかもしれません)と書友との交流を通しての刺激、楽しさなどが大きかったと思います。そして何より導いてくれた師の存在も大きいものでした。

「書く」行為は私にとって生活に組み込まれた当たり前のものです。しかし、墨象は「内なる自己の表出」という私の日常では抑え込みが

ちな感情でもあるのです。日常・非日常のほどよいバランス、作品の生みの苦しさも含め心地よさを感じています。

社中は令和6年に創設45年を迎え、また私が引き継いでから4年が経ちました。ここまで多くの方々にご助言、ご指導をいただきました。そんなご厚情に感謝の意を込めて令和7年10月仙台で社中展を開催しました。社中内で自主的に実行委員会が立ち上がり打ち合わせを重ねて徐々に形になっていきました。そして、社中展に取り組む姿勢、方針として皆に意見を出してもらい「瑞樹——大地に根を張り、空に向かってどこまでも枝葉を伸ばす、瑞々しい樹木のように、私たちも成長していきますように」と決めました。

久しぶりにお会いできた方や初めてお会いし声をかけてくださった方など多くの方々にご観覧いただき無事終了しました。約1年の準備期間を経て社中一致団結、さらに信頼を深め充実した時間をともに過ごしました。そして、私の活動の原動力は、社中の皆さんの存在なのだ改めて実感しました。

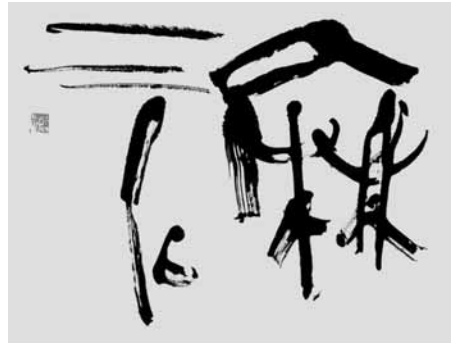
今、齢七十を越え、書道に出会い、続けてこられたこと、良き環境、人々、家族、亡き師に心から感謝し「気負わず、驕らず、怯まず」また一歩ずつ進んでいきたいと思えます。

新 鋭 礼 讃



漢字部
審査会員
佐伯 哲哉
(鳥取県)

所属 鳥取県中央
書道連盟
師名 名越蒼竹
参加している書展
毎日書道展



麻三斤

「麻三斤」

作品自評

禅語「麻三斤(まささんぎん)」を篆書で書きました。唐の洞山禅師に、ある僧が「仏とは何か」と訊ねたところ、洞山は「麻三斤」と答えたと言います(「麻三斤」とは僧衣一着分の麻糸の量のこと)。仏は特別なものではなく、日常のさりげないところ、何気ないものにも見出すことができる、という意味でしょうか。
画数の少ない三字書で、墨量・線質の変化をもたせることを意識しましたが、やや単調な仕上がりとなりました。紙面上部に重心を寄せることで、下部の余白にリズムを加えられた点は成功したように思います。禅語にはもっと落ち着いた書風が合うかと自省しています。

書活動における課題

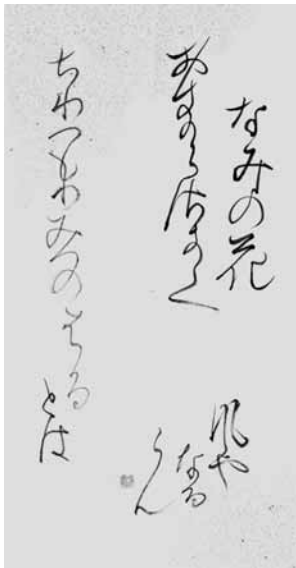
書きたいときに書きたいだけ書く、そんな時期を過ぎ、仕事・育児・地域活動など色々な時間の隙間に書道があります。展覧会の制作に追われがちですが、そんな中でも書くことを楽しんで長く続けていきたいと思っています。
今、伝えたいこと
大学時代から始めて10数年、飽きもせず楽しく書いてきました。一方で、家族や近い友人には、相変わらず良し悪しが分からないと言われます。鑑賞者を置き去りにしては、芸術としての書は廃れていくのではという思いがあります。
暮らしの中にも書を飾り、多くの人が作品を鑑賞できる機会を作りたいです。

かな部・審査会員



所属 書泉会
師名 下谷洋子
勝山初美

中里 智香 (群馬県)



「なみの花…(本阿弥切より)」

参加している書展

毎日書道展・群馬県
書道展・前橋市民展

作品自評

本作品は、本阿弥切の内の1首を拡大臨書し、構成を変えて書きました。私の今までの書活動では主に小字の作品を書いてきました。昨年あたりから中字、大字作品にも取り組もうと思ひ、今はかなの基礎である古典を元に展開させて創作することに慣れていこうという段階です。

本阿弥切の丸みを帯びたりズミカルな書風を活かしつつ、構成を変化させることが難しく、苦戦しました。
書活動における課題

昨年、師である下谷洋子先生に、自身の成長のために何をしたらよいか、課題を見つめ直したうえで、それに対するアドバイスを頂きました。
私は中字、大字作品にも取り組んでいきたいと思ひ、作品製作に慣れるために

は、

・半切に1首縦に書く(まずは形臨)

・その後、文字を少し変換して、花のある漢字などを取り入れて作品的にしてみる
これらを毎月少しずつ実践していこうと思ひます。
今、伝えたいこと
小学2年から姉の影響で書道教室に通い始め、小学4年から現在まで勝山初美先生にご指導いただきながら書活動を趣味の一環として続けてきました。私は絵を描くことも好きで、それぞれ作品を作るのには時間がかかりました。昨年度、芸術院展の審査員に昇格させて頂きました。仕事も責任を負う立場になり忙しく、日々の時間の使い道を考えた時、書道に興味の一環という今の意識と向き合いたいと思ひます。

なみの花おきからさきてちりつちりみづのはるとは風やなるらん

第79回書道芸術院展
〈1〉

書道芸術院春華賞



前衛書部
岩上郁子

この度、第79回書道芸術院展におきまして栄誉ある春華賞を頂き、誠にありがとうございます。思いもよらずこのような大きな賞を頂き感謝の気持ち



「生きる力」

岩上 郁子

ちでいっぱいです。これも書道芸術院の諸先生、長きに渡り指導して下さった真下京子先生、書友の皆様、家族の支えのお陰と深く感謝申し上げます。

今回のテーマは『生きる力』で、生の古代文字より構成を考えました。子ども達へ「困難を突き抜け、自らの足で歩む」というメッセージを込めました。その想いを縦の強い線で表現し、子ども達がどんな荒波も乗り越えて逞しく生き抜くことを願ったものです。

この受賞を励みにこれからも書道芸術院の精神を継承しつつ、驕ることなく書芸術に精進してまいる所存です。今後とも宜しく御指導お願い申し上げます。

書道芸術院大賞



現代詩文書部
須藤雪蓮

この度は、第79回書道芸術院展大賞を賜り、誠にありがとうございます。思いがけない幸運に、いっそう身の引き締まる思いです。



「中家菜津子の短歌」

須藤 雪蓮

書道芸術院の諸先生方、日頃より熱心にご指導くださる坂本素雪先生、伊呂波書の会の先生方、書友の皆様には感謝の念に堪えません。素晴らしい方々に恵まれ、楽しく書を学べていることは身に余る幸せと感じております。

今回の作品は、雨を見ている人の情感をしっかりと潤いのある筆致で表現できたらと思い、制作に励みました。

先生の「言葉に何を感じ、何をどう表現するのか。線と空間の芸術を求めていることを忘れないように」という教えを深く胸に留め、観る方の心に響く作品創作に精進してまいります。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

書道芸術院準大賞

「聞王昌齡左遷龍標遙有」



金延 惠市

「鶴見正夫の詩 太陽」

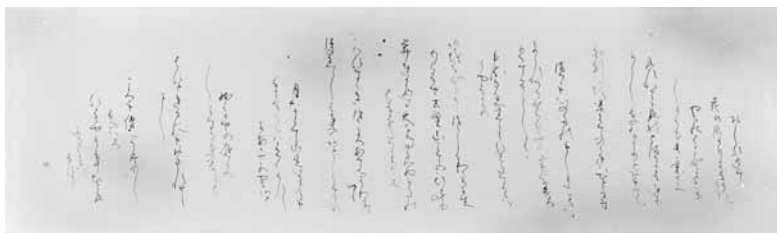


加藤 祐子

「春日憶李白」



本田 賀伸



「おしなべて」

逸見 玲子



「交響」

相内 沙莉

白雪紅梅賞



「正月十九日」

猪原 美風



「皇風蒸煦壽域春」

佐茂 明祥



「夏の里山」

高橋 真弓



「擬送別」

齋藤 等節



「岳陽晚景」

栗原 華泉



「時より」

上野 千琇



「夕焼け」

中島 俊恵



「なだらかな斜面」

吉田 紫風



「廻」

蛭川友香里



「続く」

深松 慶子

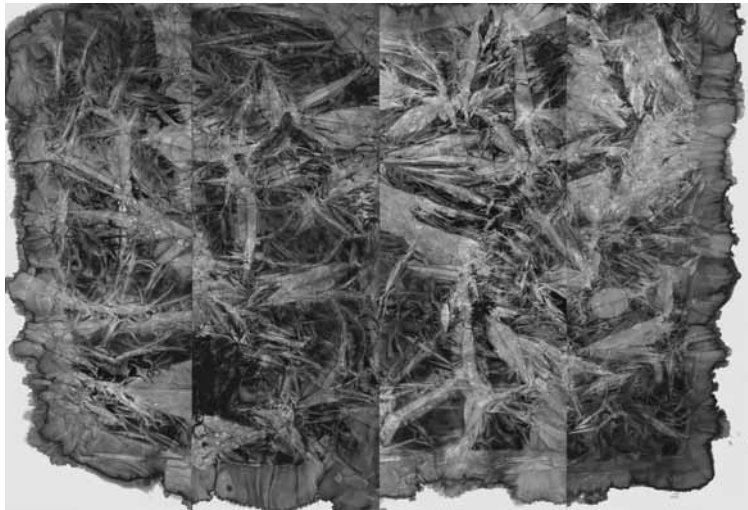
〈第78回展で選抜（春華賞・春華賞候補）された大作コーナー〉



大作
熊谷
翔

「緋緘の鎧」

210×360cm



大作
千葉
紅雪

「祈りつづける-未来へ」

240×360cm



大作
山内
松吾

「北島角子の歌」

180×360cm

蘭亭叙(東晋 王羲之) ①

漢字研究部臨書課題

Ⅱ(半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

Ⅱ(A大作の部 毎頁履書会員・倉サイス以内、2×6尺、紙も可) 当該古典の左記掲載部分以外も可。
(B小品の部 半切以内、半切以内、金紙以外も可)(A・B縦目書)

〔解説〕東晋の永和9年(353)、王羲之は名士41名を別荘の蘭亭に招いて「曲水の宴」を催した。そこで詠まれた漢詩を詩集としてまとめた際の序文が「蘭亭序」である。全28行、324字。ただし草稿であるため、ところどころに字の訂正や書き加えがある。臨書するときは、修正後の形を想定する必要があるだろう。古来、書聖の行書の劇跡として珍重され、広く学ばれてきた。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

唐の太宗が羲之の書を酷愛し、全国からその真筆を収集し、死後、自らの墓(昭陵)に随葬させたと伝わる。したがって、伝世の諸本はすべて写しということになる。その中でも、虞世南の臨本とされる(ただし真偽は不明)「張金界奴本」、馮承素の揚摹本とされる(これも真偽不明)「神龍半印本」が有名である。今回の図版は、見やすいという理由で後者を使用している。(編集部)

※掲載図版原寸



永和九年。歲在癸丑。會于會稽山陰之蘭亭。脩禊事也。羣賢畢至。少長咸集。此地

(北京 故宮博物院藏)

古筆鑑賞

265

粘葉本和漢朗詠集
(伝藤原行成筆)

①

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

〈よみ〉端午ノ有時当戸危身立、無意故園任脚行。艾人昔ノわかごまとけふにあひくるあやめぐさノおひおくるゝやまぐるなるらむ頼
基ノきのふまでよそにおもひしあやめぐさノけふわかやどのつまとみるかな能宣

端午

有時當戸危身立無意故園任脚行
艾人昔ノわかごまとけふにあひくるあやめぐさノおひおくるゝやまぐるなるらむ頼

頼基

わつともとけふよあひくるあやめぐさノおひおくるゝやまぐるなるらむ頼
たひおくるゝやまぐるなるらむ頼
さけふあやめぐさノおひおくるゝやまぐるなるらむ頼
けふわらわらあやめぐさノおひおくるゝやまぐるなるらむ頼

三の丸尚蔵館蔵

※掲載図版原寸

特別研究部臨書課題

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用) 別紙を裁断して貼付も可。
半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。左記の古筆の掲載部
分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
A 大作の部 毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
B 小品の部 半切以上、半切以内(縦横自由)
ハ いずれも左記の掲載以外も可。√

※古筆は原寸(以上も可)で臨書して下さい。

〈解説〉王朝文化最盛期(道長の頃)に、宴席で詩歌を朗詠することが流行した。その際の手控えとして重宝されたのがこの「和漢朗詠集」である。貴族の交際のハンドブックと言えるだろう。現存するものはすべて調度手本として制作されたものであるが、かなの基本として学ばれてきたのは、この「粘葉本」である。書風が端正優美で習いやすく、漢字は和様の典型を示している。

① 題名(テーマ)
② 漢詩の詩句
③ 和歌

の順で整然と構成されている。(編集部)

漢字規定 初段以上 【5月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

名越蒼竹選書



時和氣清

よみ (時和して氣清し)

書体 自由

習い方解説 (1)

名越蒼竹

時和氣清

(時和して氣清し)

(張衡)

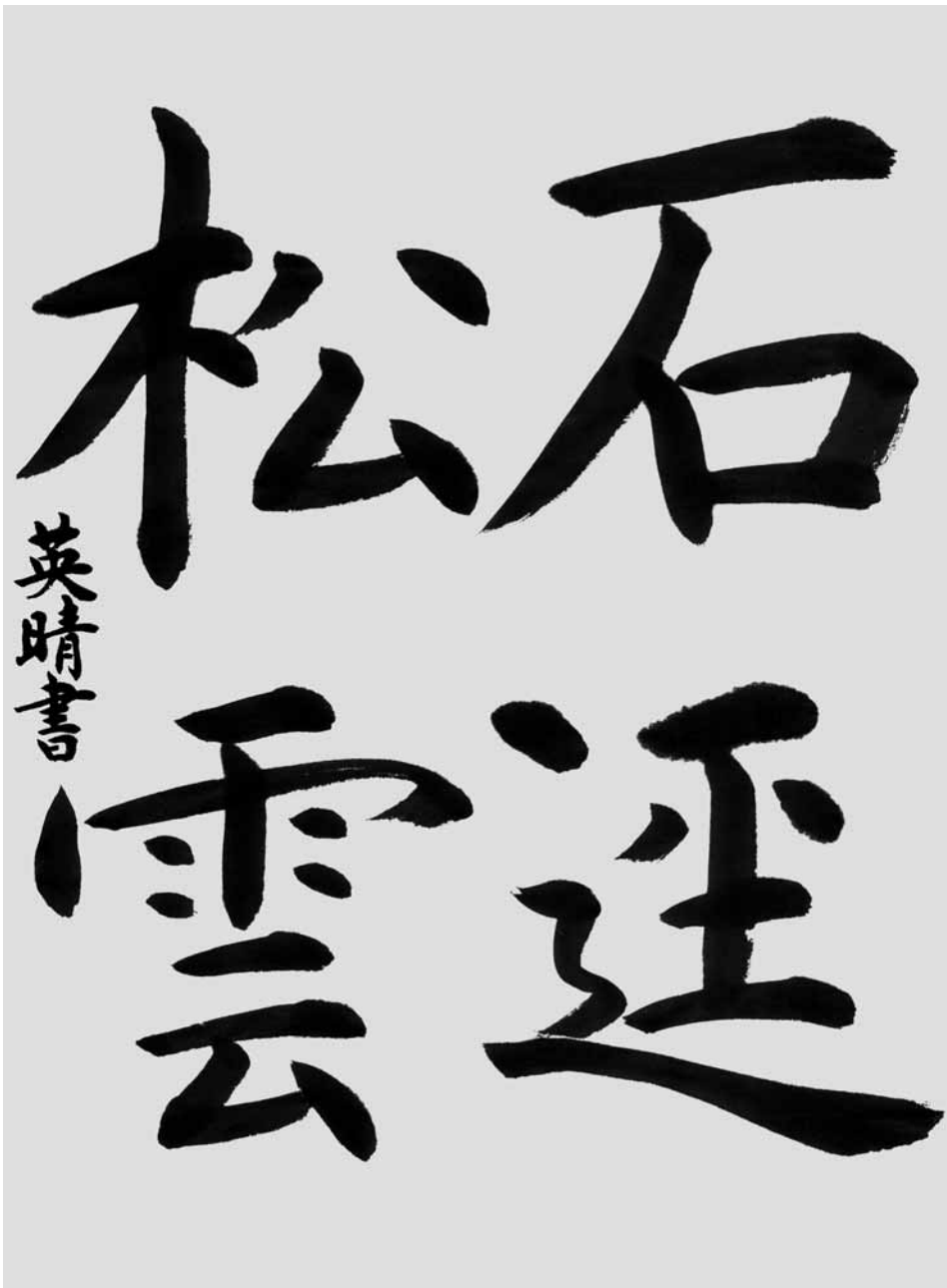
米芾の書法を意識して書きました。米芾は蘇軾や黃庭堅の作品に感じられる宋代特有の字の歪みは強くなく、王羲之の書風を学んでいくうちに宋代の特徴が薄れていったようです。米芾以後の「王羲之の書」の中には彼の臨書ではないかと噂されるものもあるくらいです。

米芾の書は華麗で、用筆・運筆に関する様々なテクニックが駆使されています。真跡が残っているのでそれらの書を臨書することで私たちの技も鍛えられると思います。さらに半紙だけでなく、条幅作品を書く時に字形・章法のありかたは大いに参考となります。

米芾は横画を続けて書いた後に縦画を書く癖があるので「時」や「清」はそのように書いています。

漢字規定 秀級以下 【5月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

鈴木英晴 選書



習い方解説 (1)

鈴木英晴

石逕松雲 (四字熟語)

(石逕の松雲)

「石逕」…石の多い小道。

「松雲」…松に雲。

石ころ道に沿って松並木が続き、その上に雲が顔を覗かせているすがすがしい風景をイメージし、真世南の孔子廟堂碑の書風を参考にして書いてみました。何枚か臨書をした後に、その雰囲気損なわないように、起筆はおとなしく、転折は柔らかく、横画ははじめ細く次第に太くし、向勢でのびやかにやさしく、字形は縦長を意識して筆を進めました。

古典をもとに創作を行うと、作品に気品が生まれます。普段からさまざまな古典の臨書をする事によって、作品制作の幅が広がります。素材にあった雰囲気醸し出して、品位の香る素敵な作品を自由に制作してみてください。

筆は麴毛の中鋒を使用しました。

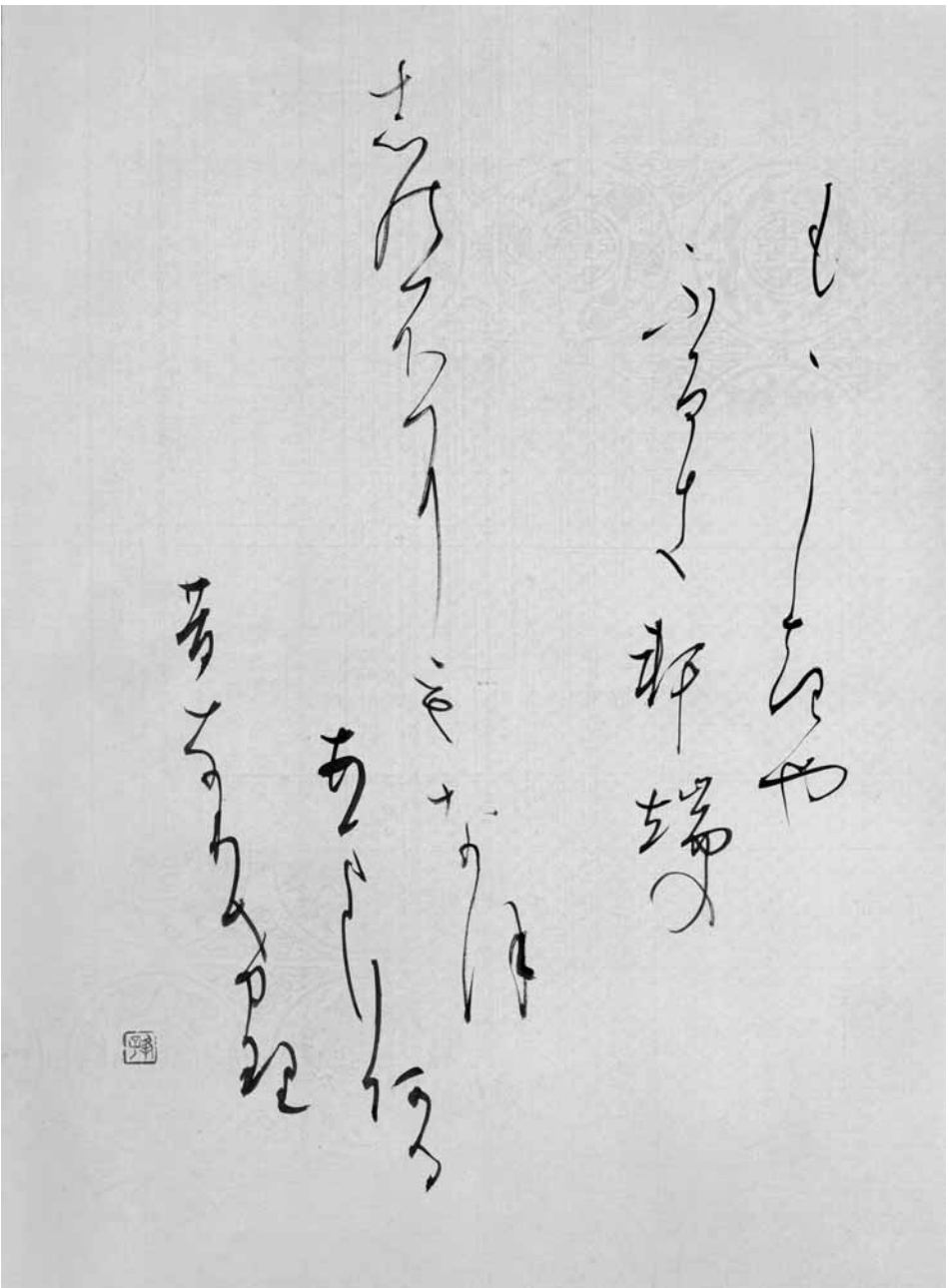
石 逕 松 雲

よみ

(石逕の松雲)

〈編集部・注〉2字目の「逕」は「徑」を使用しても可とします。

書体Ⅱ楷書



習い方解説 (1)

平川峰子

ももしきや古き軒端のしのぶに
なほあまりある昔なりけり

(順徳院「百人一首」)

宮中の古びた軒端に生える忍ぶ草
を見て、昔の栄華はいくら偲んで
も偲びきれないけれど、素晴らし
い昔(良き時代)だったなあ。

「ももしき(百敷)」は宮中を指し、
「しのぶ」は「忍ぶ草」と「偲ぶ
(懐かしむ)の掛詞。順徳院(1197-
1242)は鎌倉時代の第84代天皇で後鳥
羽院の第三皇子。

かな作品の散らし書きの基本に気
をつけながら書いてみました。

行の長さが同じにならないように行
頭と行尾に留意し、行間の広さに変
化をつける。墨量に変化をつけるた
め3行目は濁筆にして4行目のあで
墨継ぎ。最終行は右に寄せながら書
く。ほかに文字の大小、太細、強弱
など変化をつけることができれば良
いのですが……。

よみ方 もも(ん)しき(起)や古(ふる)き(支)軒端(の)し(志)の(能)ぶ(不)に(耳)も(毛)

なほ(保)あま(万)りあ(阿)る昔(な)り(利)け(希)り(理)

創作

*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切って下さい。

漢字条幅規定 初段以上 【5月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書



白日依山盡 黃河入海流 欲窮千里目 更上一層樓 (王之渙)
(白日山に依って尽き、黃河海に入って流る。千里の目を窮めんと欲して、更に上る一層の楼)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下 【5月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

大平邑峰選書



能事不受相促迫 (杜甫)
(能事は受けず相促迫するを)

書体||自由

習い方解説 (1)

種谷萬城

波磔のある隸書「八分」で書きました。秦に誕生した隸書は、漢代の正式書体です。起筆は藏鋒。収筆に波勢。特に波磔に裝飾的な筆法が見られます。横広の字形。水平・等間隔の横画。転折部は筆を一度引き抜き、改めて藏鋒で入筆します。隸書特有の基本的な書法を理解し、魅力溢れる漢簡・漢碑の名品を学んで下さい。

※タテ形式に限る

習い方解説 (1)

大平邑峰

今回から半年担当します。概ね行書で試みてみようと思っております。よろしくお願いたします。
今月は、半切1行書きで7文字の形式です。まずは蘭亭叙を臨書して、その書風を意識しながら書いてみました。画数が少ない字ばかりなので、奇を衒うことなくじっくり筆を運びながら、気脈を通すことを心がけました。

菜の花畠に入り日うすれ
見わたす山の端霞ふかし
春風そよぶく空を見れば
夕月かかりてにおい淡し
朧月夜より 紅瑤書

書体＝自由

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

【注意】

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

習い方解説 (1)

倉林紅瑤

BS朝日で「子供たちに残したい 美しい日本のうた」が放送されています。そこでは私たちの心に響く懐かしい歌の数々が紹介されています。

「朧月夜」(高野辰之作詞、岡野貞一作曲)は、大正3年(1914)の「尋常小学唱歌(六〇)」で発表された日本の春の歌を代表する文部省唱歌です。菜の花が咲き乱れる春ののどかな夕暮れから、ぼんやりと霞む月夜へと移り変わる農村の風景を描いています。次回はこの「朧月夜」の2番の歌詞をとりあげます。

参考手本の漢字は行書で、平がなは平安時代の古筆「高野切第三種」や「粘葉本和漢朗詠集」などの基本形を基に書きました。漢字は大きめに、平がなはやや小さめにし、リズム、流れを大切に書いて下さい。

菜の花畠に入り日うすれ
見わたす山の端霞ふかし
春風そよぶく空を見れば
夕月かかりてにおい淡し
「朧月夜」より ○○書

道中車の渋滞に巻き込まれま
すが無事に帰宅致し
ました。心温まるおもてなしに
家族一同感謝致しておい
ます。夕べの休暇と
なりました。小竹石雲

(掲載手本85%に縮小)

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の氏名(号)を
- ◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇所定の出品券を作品の右下に貼る

道中車の渋滞に巻き込まれまし／たが無事に帰宅致しました／心温まるおもてなしに家族一同／
感謝致しております。久しぶりに／故郷の墓参りもできよい休暇と／なりました／氏名

かな部 師範 池田 幸子

やや硬い感もあるが、実に生き生きと、リズムが紙を噛みつゝ疾走する。料紙への墨の配慮も佳。
◎かな部総評 参考手本と同様作は概ね良好。ただ文字数が少ないため歌の時より少し字粒も大きく筆圧もかけて運びたい。(洋子評)

漢字条幅部 師範 江本 興舟

なんと瀟洒で気満な作品だろう。紙面の周囲に語りかける響きの清潔感がすばらしい。



◎漢字条幅部総評 行草作品に要求される、貫通性を生かした文字造形と潤渇による流動美の研究をもっとしてほしい。(石雲評)

かな条幅部 師範 榎田 和子

墨色の濃淡と余白を活かした構成によって、豊かさと流麗さがあふれる作品となった。



◎かな条幅部総評 2行書きは行頭の位置に留意し、渴筆の部分は伸びやかにしつつも全体との調和を考慮することが大切。(孝子評)

漢字部 師範 加瀬明日夏

呉讓之風の小さ。線がのびやかで、起筆、収筆の筆法が着実。端正な字形。熟達した技量が窺える。
◎漢字部総評 上級は行草書が多く見られたが、線質の良否で評価に差が出た。草書の字形が不安定な作もあった。(萬城評)



前衛書部 特選 佐久間史江

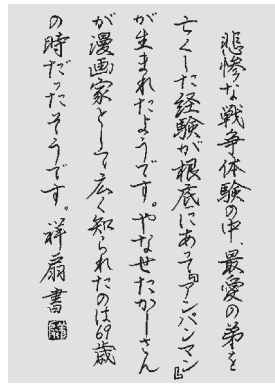
シュールな感じが紙面に漂い、これが余韻効果を創出している。これからも期待します。

◎前衛書部総評 多様な墨色の工夫が多くに見られ、スキルアップを感じました。今後に期待を抱く。(慧香評)



ペン字部 師範 佐藤 祥鳥

堂々、気脈一貫した字形線質布置全てを兼ね備え、多字数をすっきりまとめる力量には脱帽です。
◎ペン字部総評 文字の流れと行間で作品が生きてきます。特に気脈は大切にリズムに乗って書きましょう。(富美子評)



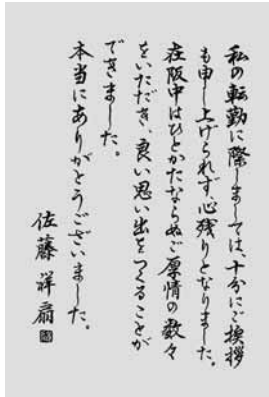
現代詩文書部 特選 高原 梨秀

淡墨でありながら線の勁さは抜群。潤渇を織り交ぜた多彩な線質で内面の豊かさが感じられる。

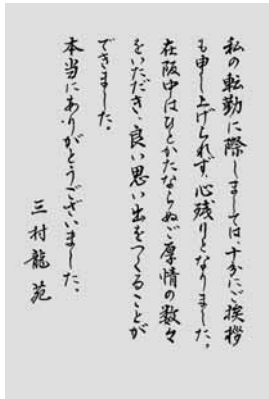
◎現代詩文書部総評 構成は自由だが、全体の融合性は必要。線質は筆によって変わるもので、いろんな筆に挑戦したい。(恵鳳評)



選評 児玉 輜 光



特選 佐藤 祥扇
線質がよく、行間が美しい。字の
大きさが整い、温かみが伝わる。

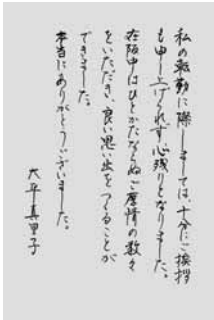


特選 三村 龍苑
漢字、かなの字形が整い、骨力がある。字の大きさも的確で魅力的。

◎実用書部総評

実用書は、紙面にそった各字の大きさが求められます。行間は明るくすっきりとし、受け取った方が、さわやかな気分になることが必要です。
(輜光評)

今月の注目作
大 平 真里子



秀水	華雪	上里	一心	栄光	遊雲	掃雪	上里	若美	幹仙	生大	高真	千葉	八街	一心	秀香	八街	華仙	福島	梓江	特選
坂井	小池	菊地	石森	石関	脇塚	脇塚	宮前	久田	大平	太田	梅山	猜又	熱田	秋葉	小竹	松植	山本	三村	佐藤	祥扇
初江	稔子	恵水	博子	竹苑	翔子	清美	清美	文字	真里子	久子	理扇	游泉	ミエ	紗香	華泉	美楓	龍苑	祥扇	祥扇	祥扇
芳街	芳蘭	附中	帝塚	樹原	啓佳	玉州	若美	清月	高真	日新	吉岡	清月	入	竹美	明香	椿翠	高真	大阪	八街	掃雪
八街	芳蘭	附中	帝塚	樹原	啓佳	玉州	若美	清月	高真	日新	吉岡	清月	入	竹美	明香	椿翠	高真	大阪	八街	掃雪
小林	小杉	木村	金城	葛子	春日	角張	梅澤	牛久保	岩上	石橋	石関	飯島	相川	横山	矢部	安嶋	松尾	古川	藤川	中野
悦子	房翠	智子	智子	美吉	本郷	芳蘭	勝江	勝江	郁子	惠美	惠美	トミ子	京子	蘭舟	香苑	真砂子	有希子	彩遥	千春	李花
大雲	楓会	宗苑	佑朋	吉岡	八街	登春	大阪	八街	菅田	福山	江龍	立精	やま	有秋	登春	吉岡	白露	花祥	深大	多賀
渡辺	渡辺	茂木	宮上	三上	保谷	深澤	名定	南雲	戸部	徳永	鶴見	千田	田玉	有秋	高橋	関谷	春原	杉田	清水	齋藤
妙華	妙華	紬水	淳子	政子	美芳	佳月	秋香	洋子	中野	藤風	嘉美	白香	哲子	幸苑	純子	純子	慶子	祥風	良子	松苑

大作の部

臨書 (大雲)
宮原香扇
「蘇慈墓誌銘」

公諱慈字孝慈其先扶風人也
九曲靈長河流出積石之下十
城側厚玉英產岷崙之上故地
稱陸海之興山謂近天

宮原香扇臨

180×60cm

◆2×6尺に4行で書かれた蘇慈墓誌銘。北魏楷書の厳しさも感じられ最後までキリッと引き締まった一貫性のある作品です。

(鄭街評)

漢字 (杏苑)
松永杏苑
「養氣得基和」

養氣得基和

松永杏苑書

180×46cm

◆2×6尺に五字句を大胆に篆書で表現した。氣迫溢れる筆致は魅力十分。今後更なる新しい表現を期待しています。

(鄭街評)

前衛書 (花埜)
高橋清琳
「啓蟄」



高橋清琳書

180×60cm

◆墨色に深みがあり、直線と円という基本的な形を踏まえつつ、その枠にとられない自在な動きを生み出している。

(蒼玄評)

現代詩文書 (翠苑)
佐々木豊苑
「吉野秀雄の歌」

紅の真椿
玉割木未春の吐息のいととくに
詠りしともなはらぬ

佐々木豊苑書

180×60cm

◆健康的で潑刺とした伸びやかな線條が魅力的。筆先がしっかりと働いているため、流れも自然で安心して見られる作。

(石雲評)

〈大作の部〉

創作の部(35点)

漢字 4点

かな 8点

現代 7点

前衛 16点

臨書の部(7点)

漢字 7点

かな 0点

総出品点数

42点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕 大拙 畠中 成山

〔かな〕 奥田 小西 芙月

奥田 三宅 直美

水荃 清水 蘭舟

奥田 小林 純風

奥田 生駒 久華

〔現代詩〕 八戸 市川 紫泉

翠柳 加藤 紫翠

光風 千葉 光泉

〔前衛〕 松風 西條 松雲

蒼原 佐藤 奎山

玉州 遠藤 和香

白珠 小島 遠平

月華 浅野 涌翠

白珠 村井 利喜

容洲 阿部 邑里

蓮紅 佐藤 紅茜

〔漢字〕 千葉 佐藤 桂香

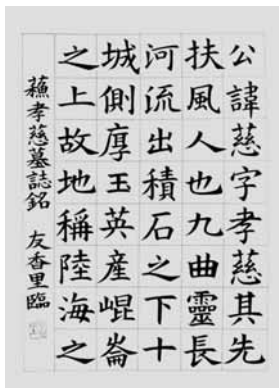
素朴 坂本 素朴

遊山 紺野 遊山

漢字研究部
(蘇慈墓誌銘)

選評 稲垣小燕

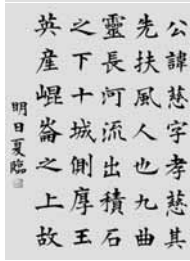
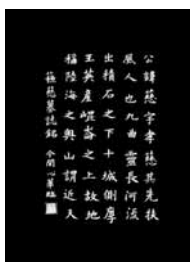
今月のホープ作品



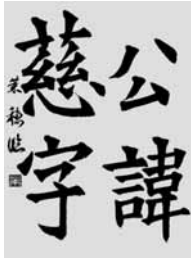
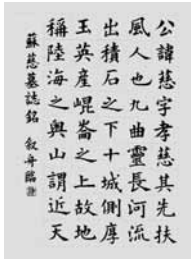
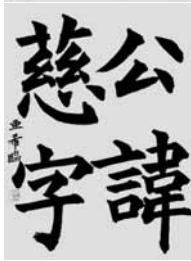
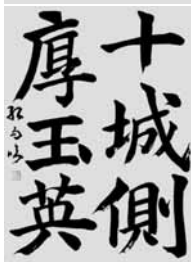
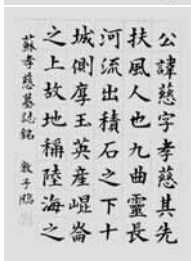
香里友川 蛭

漢字研究部 特選 蛭川友香里
巧みな字形の揃み方、確實で明快な用筆、伸びやかな書線で原帖の趣きがよく表現された見事な作です。古典への真摯な向き合い方に共感を覚えます。更なる錬磨により一層、深味のある作となることを期待いたします。
◎漢字研究部総評
蘇孝慈墓誌銘は、楷書の学書にとって必修の古典です。幸いに原帖は摩滅が少なく、非

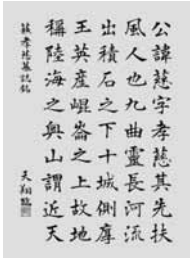
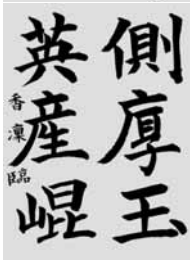
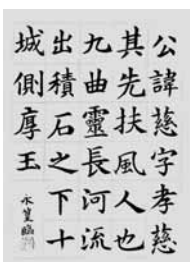
常に見やすく、字形、線質ともに揃みやすいです。臨書するにあたってはまず形臨です。書いては見比べ、書いては見比べる。この作業を繰り返すことで自ずと全体が見えてきます。出品作には無頓着に書かれたものが多く見受けられ誠に思います。折角の学書の場合です。丁寧に取組んで実りの多い場となることを願っています。



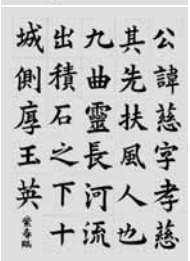
心華 博子 美恵 明日恵 和加江 和日夏 和江美



泰敦 紅雨 亞希 叙舟 叙舟 叙舟



永風 惠潤 香凜 理惠 香凜 理惠



俊春 紫奈 史実 里実 史実 里実

審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字34点・かな12点)

選評 種谷萬城・下谷洋子
漢字秀逸作



西川 藤象



北嶋 菁湖

〈次点・50音順〉



柿沼彩香

漢簡を基に創意を加えた創作。線の表情が豊かで躍動感に溢れる。充実した古典学習を基礎とした創作の姿勢を評価したい。細部に至るまで魅力的な作品です。(萬城評)

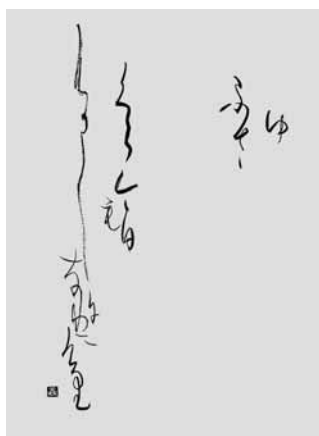


吉田 溪花



佐々木浩子

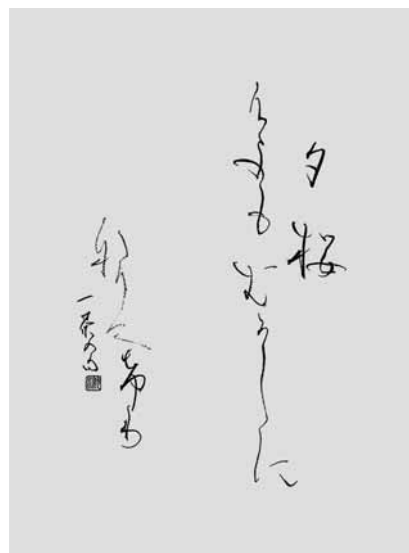
かな秀逸作



佐藤 一義



佐藤 桂香



茂木絢水

気持よいほどよく動き、それも決して騒々しくないため品格がある。料紙の質に墨色・量ともに添い、俳句の正統的姿となる。同じような1画目、一考要す。(洋子評)

第79回書道芸術院展

〈併催＝第77回全国学生書道展〉

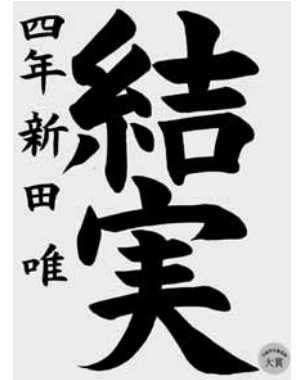
〈半紙の部 大賞作品〉



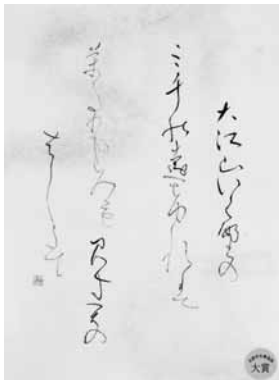
(中) 田村寧彩



(中) 弘瀬彩乃



(小) 新田唯



(大) 川野美結



(高) 若本芽依



(高) 権田日向子



(中) 安岡紗那

ごあいさつ

公益財団法人書道芸術院 理事長 下谷 洋子

第77回全国学生展のご入賞の皆さん、おめでとうございました。

昨年はいつまでも酷暑が続きましたが、そんな中、全国各地、幼稚園・小学生から大学生まで、たくさんのご応募をいただき深く感謝申し上げます。今回は、出品団体は例年と変わりありませんでしたが、半紙の部の出品が増加しました。

書道芸術院は、普段の学生版は基より全国学生展も文部科学省の学習指導要領に準拠しています。高校生以上では古典の臨書から漢字かな交じり文、かなと多様な作品に挑戦することも可能です。

今回、残念ながら入賞を逃した方々も、書道の世界の幅の広さを知り、AIにはない人の心の通った表現の豊かさを味わっていただきたいと思えます。合わせて第79回書道芸術院展において、指導者の作品を展示致しました。

ご指導の先生方、支えて下さったご家族など全ての方々に感謝申し上げます。

〈半紙の部 準大賞作品〉



(高) 岸田さら



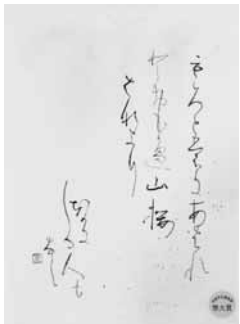
(中) 南 結



(中) 東 咲希



(小) 神作咲良



(高) 濱田すみれ



(中) 大津留みゆ



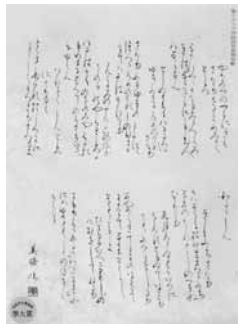
(中) 雪田彩羽



(小) 山本梨華



(高) 鶴岡海来



(高) 亀井美優



(中) 大友優奈



(小) 平林佐和子



(高) 中川未歩



(高) 楠瀬心実



(中) 石田あかり



(中) 牧田希花

〈半切 1/2 の部 大賞 作品〉



(高) 安達 野乃花



(中) 川名 尊士



(中) 須田 紗永子

〈半切 1/2 の部 準大賞 作品〉



(中) 今西 笑里



(中) 柴田 芹奈



(中) 古家野 由羽



(小) 坂本 麗衣



(高) 原田 美和



(高) 有光 由藍



(高) 三浦 虹空



(中) 黒木 凛

第77回 全国学生書道展
「指導者作品展」 役員作品



「雪の玉水」

運営委員長
下谷 洋子



「烟嵐」 顧問・名誉会員 辻元 大雲



「山頭火句」

実行副委員長
千葉 蒼玄



「馬」 実行委員長 小竹 石雲

二〇二六年毎日書道展新会員作家展より

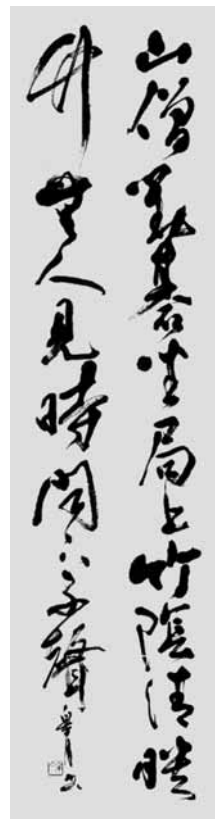
会場・アートサロン毎日

「燈獨守寒宵」



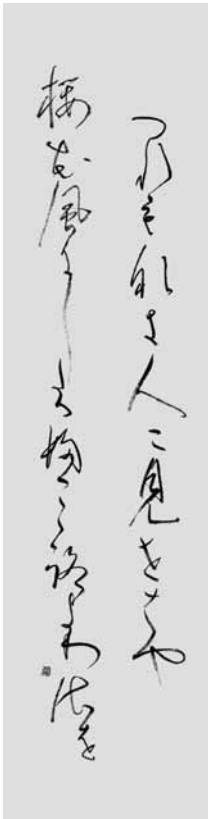
紺野 遊山

「白居易詩」



山崎 阜月

「つれもなき」



大崎友里絵

「行く春を」



木村 関泉



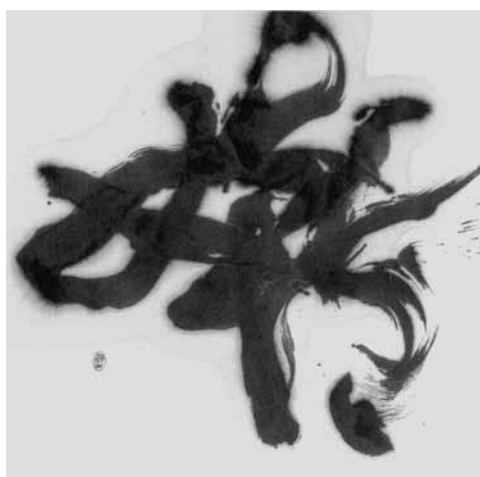
「道」による
「追」による

安藤 楊風



「星雲の煌めき」

大友 四峰



「嬉」

衣田 琴草

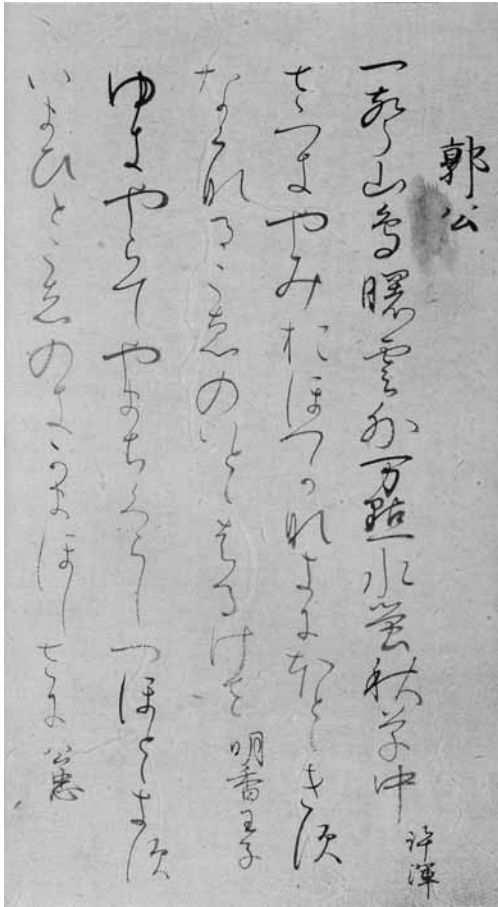


「求」

清遠 瑞

古筆鑑賞 266

粘葉本和漢朗詠集 (伝 藤原行成筆) ②

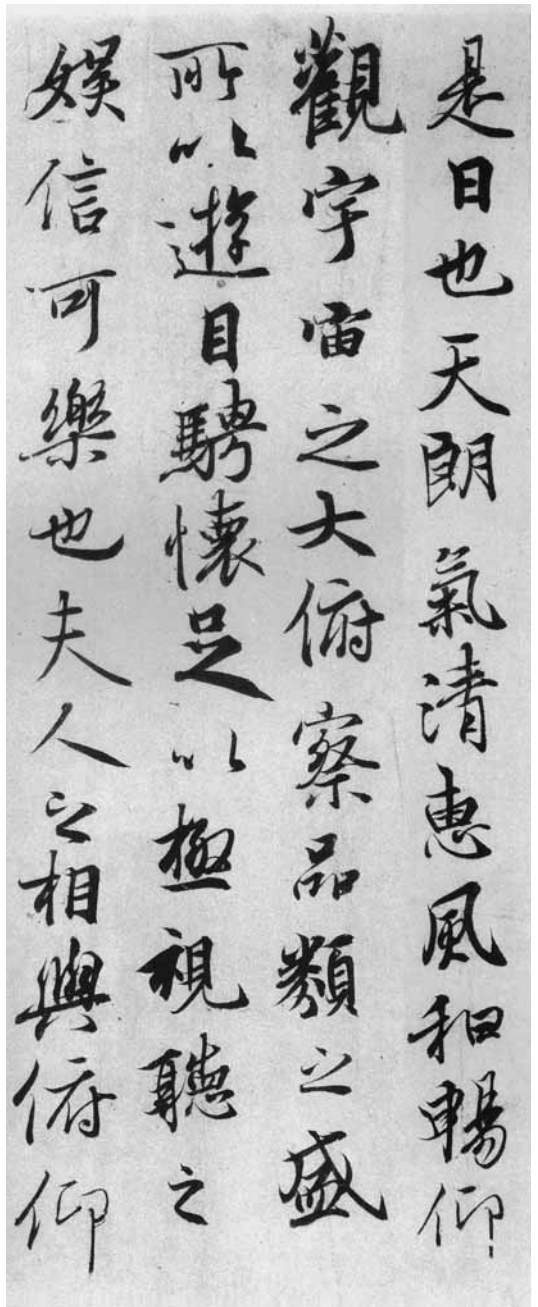


(掲載図版・60%に縮小)

〈よみ〉
 郭公 / 一声山鳥曙雲外 万點水螢秋草中。許
 渾 / さつきやみおぼつかなきにほととぎす /
 なくなるこゑのいとどはるけさ明(日)香王子
 / ゆきやらでやまぢくらしつほととぎす / い
 まひとこゑのきかまほしさに公忠

古典鑑賞 492

蘭亭叙 (東晋 王羲之) ②



(掲載図版・70%に縮小)

是日也。天朗氣清。惠風和暢。仰／觀宇宙之大。俯察品類之盛。／所以遊目騁懷。足以極視聽之娛。信可樂也。夫人之相與俯仰

特別昇段級試験

一、しめきり日 4月15日(水)

春季作品募集は、左記の通りです。

- 漢字 一種、二種
- かな 一種、二種、三種
- 漢字条幅 一種、二種、三種
- かな条幅 一種、二種
- ペン字 一種、二種
- 漢字、かな条幅、ペン字の三種は、秋季募集となります。

二、応募資格

- 一人でもいくつの部にも応募できる。
- 第一種 現段級が特級、10級、新規
- 第二種 現段級が初段、3級
- 第三種 (4、10級の方は受験できない)

- ・現段級が準師範、秀級 (優級以下の方は受験できない)
- ・第三種

三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧字体どちらでも可)

※漢字・かな・漢字条幅の臨書作品は〔指定の範囲から指定文字数〕を臨書すること。

漢字部 半紙Ⅱたて長に使用

第一種 (1枚)

楷 臨書 孔子廟堂碑 (孔子廟堂碑より4文字を臨書)

第二種 (計2枚)

楷 臨書 蘇慈墓誌銘 (蘇慈墓誌銘より4文字を臨書)

行 創作 養怡之福 (曹操 (兼怡の福))

かな部

半紙Ⅱたて長に使用

・料紙可、各臨書は料紙を裁断して貼り付け可。

・かな部臨書・創作はともに落款は印のみ可。

かな・漢字の変更自由。

第一種 (1枚)

臨書 高野切第三種 (半紙1枚に2首書く)

第二種 (臨・創 計2枚)

臨書 粘葉本和漢朗詠集

創作 もろこし夢に見しかばちかりき おもはぬ中ぞはるけかりける (兼善法師)

第三種 (臨・創 計3枚)

臨書 関戸本古今和歌集 (半紙1枚に2首書く)

臨書 寸庵庵色紙 (半紙1枚に1首) たて13.0cm×よこ12.6cmの枠 (原寸大) を半紙にとり、その中に書くこと。

落款は枠外に書くこと。

印のみも可。(枠外に押印)

吹く風をなごその閑と思へども 道もせに散る山桜かな (源義家)

創作

漢字条幅部 小画仙紙半切Ⅱたて長に使用

第一種 (1枚)

楷書または行書 創作 時寒半説雲 (劉克莊)

(詩は寒にして半は雲を説く)

第二種 (楷・行 計2枚)

楷 臨書 皇甫誕碑 (皇甫誕碑より14文字を臨書)

行 創作 少時喚愁作底物 老境方知世有愁 (陸游)

第三種 (楷・行・草 計3枚)

楷 創作 忘盡世間愁 故在 和身忘却始應休 (陸游)

行 臨書

争座位文稿 (争座位文稿より20文字を臨書)

草 臨書 書譜 (書譜より14文字を臨書)

かな条幅部 (料紙可)

小画仙紙半切Ⅱたて長に使用

かな条幅部創作の落款は印のみ可

第一種 (1枚)

かな・漢字の変更自由

創作 おもひ出で物なつかしき柳かな (稚本才麿)

第二種 (創 計2枚)

創作 桜より桃にしたしき小家哉 (写謝蕪村)

創作 春の夜は軒端の梅をもる月の光も薫る心地こそすれ (藤原俊成)

ペン字部

はがきの大きさは白紙Ⅱたて長に使用 黒インク使用

第一種 楷書 (1枚)

第二種 楷・行 (計2枚)

日中書法交流史は大和時代の五世紀から始まる。百済を經由し、中国の文物や制度とともに漢字を受け入れたのがその出発点である。 ○○書

四、名前のかき方

- ◎どの部も落款を入れる。
- ・創作は○○書と書く。(かな部・かな条幅部は印のみ可)
- ・臨書は○○臨と書く。(かな部・かな条幅部は印のみ可)

五、受験料

- 第一種 一、五〇〇円
- 第二種 三、〇〇〇円
- 第三種 四、五〇〇円

六、審査結果と昇段級

- ◆昇段級試験用振替口座で納入。
- 成績に応じて、次の通り昇段級させる。
- 第一種は、最高秀級まで
- 第二種は、最高二段まで
- 第三種は、最高師範まで

七、応募手続

- 1 出品票はバーコード出品券を使用し、4月号(78号)の段級を記入(昇試出品券を貼付欄に貼る)
- 一種は作品の右下に貼る。二種・三種は1番上のみ、作品の右下に貼る。
- 2 作品2枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりでとめる。
- 3 団体支部の方へは事務所から応募書類一式を送付する。
- 4 個人で受験希望の方は、はがきで申し込む。
- 5 受験申込み締切は3月19日(木) (申込期限を過ぎましたが、希望者は大至急申込を)
- ・申し込み先 〒101-0031 千代田区東神田1-16-17 東神田プラザビル3階 公益財団法人 書道芸術院 書道芸術編集部特別昇段級試験係 (受験番号を記入した個人専用) の応募書類を送付します。

競書出品規定

※規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※半紙は縦使用に限る。

※落款(印のみも可)を入れる。

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

- 1、締切日必着厳守
- 2、月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない
- 3、月別出品券のコピーは不可
- 4、(一)初めて出品のときは「10級」と書く
(二)「課題違反」・「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

※▲印段級誤記入

※△印作品審査後着

*段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3...
段位は漢数字 初、二、三...
で書いてください。

*級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

●規定部(自分の段・級で出品)

部門	段級位	用紙	書体・内容
字	初段以上	半紙	創(書体自由)作
漢	秀級以下	半紙	創作(楷書)
な	初段以上	半紙	創作
か	秀級以下	半紙	臨書
漢字条幅	初段以上	半切	創(書体自由)作
かな条幅	秀級以下	半切	創(書体自由)作
ペン字	10師級	はがきサイズ	書体自由

●かな、かな条幅部門は料紙使用可。

●研究部(掲載課題の臨書)

部門	用紙	内容
漢字研究	半紙	文字数自由
かな研究	半紙	歌1首以上を書く、全文も可

●掲載部分以外の箇所は不可。
●かな研究部門は料紙使用可。
●料紙貼りつけ可。

●自由部(段・級によらないもの)

部門	用紙	内容
前衛書	半紙	創作
現代詩書	半紙	創作
実用書	左記	書体自由

△実用書部門・出品規定▽

- 用紙 半紙横 24.5×16.5 cm、B5コピー用紙 26×18.1 cmも可。
- 課題 掲載語句を書く。
- 小筆、筆ペン、サインペンも可。

●特別研究部

- 大作または小品のどちらかに1点出品する。
- 詳細は出品票の掲載ページを参照のこと。

☆審査委員の部について

- 「漢字部門初段以上」と「かな部門初段以上」に審査委員のみが出品できる部を設ける。
- バーコード出品券の段級欄に「審査会員」と記入する。
- 通常の競書との重複出品は不可。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957

ご連絡等は月曜日～金曜日 10時～16時の間にお願いいたします。(土日祝日は休み)

送料

- 1か月の購読部数がある
- 1部～9部までの1回の郵送料
- 1部 79円
- 2部 95円
- 3部 103円
- 4部 119円
- 5部 135円
- 6部 151円
- 7部 167円
- 8部 183円
- 9部 199円
- 10部以上は送料免除

令和八年三月二十五日印刷
令和八年四月一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 下谷洋子
発行人 下谷洋子
発行所 株式会社リンクス
印刷 小沢写真印刷株式会社
発行所 公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7
電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957
振替00150141350058
http://www.jlins.co.jp/shogei/

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和八年三月二十五日印刷
令和八年四月一日発行

(毎月一回一日発行) 書道芸術 第七八〇号